

手植えしたお米を米焼酎ねっかの原材料に

KARIYASU'18「100人手植え」開催！！

5月12日、地元農家が主催する田植え体験イベントKARIYASU'18「100人手植え」が季の郷湯ら里前の水田で開催され、首都圏などから約100名が参加しました。手植え体験は、参加者が裸足で水田に入り、水田内に記された升目に合わせて苗を植え付け、さらに別の水田では田植機の試乗体験が行われました。また、地元農家と交流する東京・渋谷からバケツドラマーのMASAさんが会場を訪れ、バケツドラムで軽快なリズムを披露しました。秋には「手刈りイベント」が企画されており、そこで収穫したお米を原材料に米焼酎ねっかをつくり参加者に贈呈される予定です。



▲泥だらけになりながら手植え体験を楽しんだ参加者の皆さん

只見町ブナセンター 春の自然観察会

第1弾「春植物を愛でる！」

5月4日、春植物を観察する自然観察会が黒谷川林道で開催され、町内外から25名が参加しました。春植物とは、雪が消えると真っ先に花を咲かせ、夏には葉や茎を枯らして地上から姿を消す植物のことで、雪解けが早かった今年は、一番に花を咲かせるフクジュソウの花が終わり、代わりに満開のカタクリやキクザキイチゲ、キバナイカリソウなどの花を観察することが出来ました。参加者は、春植物の生態について理解を深めるとともに春の花々を楽しみました。



▲カタクリを観察する参加者の皆さん



▲大きなブナが倒れてできた空間(ギャップ)を見上げる参加者の皆さん

第2弾「残雪のブナ林を歩く」

5月5日、残雪のブナ林とそこに生育する植物について学ぶ自然観察会が布沢の癒しの森で開催されました。今年はブナの開花年だったため、地面に落ちたブナの花を観察しました。また、ブナの大木が倒れた場所では、樹木が倒れたことでそれまで光が届かなかった環境に光が届くようになり、明るい環境を好む植物やこれまで暗い環境で生育していた植物が成長している様子を観察しました。参加者は、新緑のブナ林を楽しみながら、ブナ林の特徴などを学びました。

県内外の学校が只見町へ！ 教育旅行の受け入れ始まる

県内外から農村生活体験の教育旅行で訪れる学校の受け入れが5月10日、仙台市立八木山中学校2年生141名を皮切りに町内で始まりました。同校の受け入れは今回で3回目となり、季の郷湯ら里で開村式を行い、町内の農家で民泊し農作業を体験しました。

今年度、只見町では5～9月まで県内外から8校約850名(延約950泊)を、南会津町や金山町と連携して受け入れる予定です。



▲開村式で農家さんにあいさつする八木山中学校生の皆さん

只見四名山の山開き・第1弾 「要害山」山開き開催

5月13日、JR只見駅の裏に位置する「要害山(705m)」の山開きが行われ、町内外から約150名が参加しました。

開山式では安全祈願に続き、只見町観光まちづくり協会の渡部理一事務局長が歓迎の挨拶を行いました。その後、参加者は記念バッチを受け取り、新緑の要害山の頂を目指しました。下山後は振る舞いの甘酒に舌鼓を打ち、「只見四名山」の初陣となる山開きを楽しみました。



▲只見地区の町並みを背に要害山に登る参加者の皆さん

景観・環境美化の推進！ 朝日地区「ちょボラごみ拾い」

5月20日、朝日地区地域づくり委員会が主催する「ちょボラごみ拾い」が行われ、地域住民約50名が参加しました。このごみ拾いは朝日地区の国道や県道など4コースに分かれて行われており、今回集めたごみの量はごみ袋25袋分となりました。同イベントは秋にも開催する予定で、その他、地域の景観・環境美化を推進するために朝日地区の各集落にごみ捨て禁止の看板を設置しています。



▲オレンジ色のベストを身にまといごみを回収した参加者の皆さん

多くの催しで賑わう！ 亀岡トレーラーハウス1周年記念

5月27日、亀岡多目的活性化広場内にオープンした亀岡トレーラーハウスが1周年を迎え、同会場で「1周年記念イベント」が開催されました。このイベントはトレーラーハウスのテナントの方々が企画したもので、会場内ではシューズ「On」のお試し体験や施術体験、手作り品などのバザーなどが行われました。また、お菓子釣りゲームや飲食販売などもあり、多くの親子連れで賑わいました。



▲多くの催しで1周年を祝ったイベント会場